

パオン クリームカラー

使用説明書

- ご使用の際は必ず最後までよく読んで正しくお使いください。
- ヘアカラーはまれに重いアレルギー反応をおこすことがあります。
- ご使用の際は毎回必ず皮膚アレルギー試験(パッチテスト)を行ってください。

- ヘアカラーやヘアマニキュアなどで染めた髪を、その色より明るく染めかえることは困難です。

使用方法、その他についてご質問がありましたら、お客様相談室まで、お問い合わせください。

お客様相談室

☎0570-032525

受付:土・日・祝日を除く
10:00~12:00/13:00~17:00

ヘンケルジャパン株式会社
〒140-0002 東京都品川区東品川2-2-8

A.F.A

使用上のご注意

1. 次の方は使用しないでください

- ①今までに本品に限らずヘアカラーでかぶれたことのある方
- ②染毛中または直後に、じんま疹(かゆみ、発疹、発赤)あるいは気分の悪さ(息苦しさ、めまい等)を経験したことのある方
- ③皮膚アレルギー試験(パッチテスト)の結果、皮膚に異常を感じた方
- ④頭皮あるいは皮膚が過敏な状態になっている方(病中、病後の回復期、生理時、妊娠中等)
- ⑤頭、顔、首筋に、はれもの、傷、皮膚病がある方
- ⑥腎臓病、血液疾患等の既往症がある方
- ⑦体調不良の症状が持続する方(微熱、倦怠感、動悸、息切れ、紫斑、出血しやすい、月経等の出血が止まりにくい等)

2. 使用前のご注意

- ①染毛の2日前(48時間前)には右記の手順に従って毎回必ず皮膚アレルギー試験(パッチテスト)を行ってください。パッチテストは、染毛剤にかぶれる体質であるかどうかを調べるテストです。テスト部位の観察はテスト液塗布後30分位および48時間後の2回行います。過去に何回も異常なく染毛していた方でも、体質の変化によりかぶれるようになる場合もありますので、毎回必ず行ってください。
- ②頭髮以外には使用しないでください。本品は頭髮用の製品です。
- ③眉毛、まつ毛に使用しないでください。薬剤が目に入るおそれがあります。
- ④顔そり直後は染毛しないでください。皮膚が細かく傷ついているおそれがあり、刺激等を受けやすくなります。
- ⑤染毛の前後1週間はパーマメントウェーブをかけないでください。髪を傷めたり、色落ちしたりすることがあります。

3. 使用時のご注意

- ①薬剤は使用直前に混合し、直ちに使用してください。
- ②換気のよいところで使用してください。
- ③必ず添付の手袋を着用してください。
- ④染毛中に入浴したり、染める前に髪をぬらしたりしないでください。汗やしずく等で薬剤が目に入るおそれがあります。
- ⑤薬剤が顔、首筋等につかないようにしてください。薬剤がついたときは、直ちに水で洗い落としてください。
- ⑥薬剤や洗髪時の洗い液が目に入らないようにしてください。目に入ると激しい痛みを生じたり、場合によっては目が損傷(角膜の炎症等)を受けたりすることがあります。万一、目に入ったときは絶対にこすらないで、直ちに水またはぬるま湯で15分以上よく洗い流し、すぐに眼科医の診療を受けてください。
- ⑦染毛中に発疹、発赤、はれ、かゆみ、強い刺激等の皮膚の異常やじんま疹、息苦しさ、めまい等の症状が現れた場合には、直ちに薬剤をよく洗い流し、すぐに医師の診療を受けてください。
- ⑧染毛後に何らかの異常を感じた場合には、必ず医師の診療を受けてください。

4. 取り扱い上のご注意

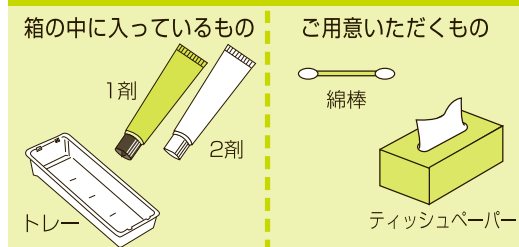
- ①混合した薬剤の残りは効果がなくなります。必ず洗い流して捨ててください。

5. 保管上のご注意

- ①幼児の手の届かない所に保管してください。誤って飲んだり食べたりすると危険です。
- ②高温や直射日光をさけて保管してください。

皮膚アレルギー試験(パッチテスト)の手順

皮膚アレルギー試験(パッチテスト)時に必要なもの



染毛の2日前(48時間前)には、毎回必ず行ってください。

皮膚アレルギー試験(パッチテスト)は、アレルギーの有無をチェックするための簡単なテストです。ある食品、化粧品、医薬品などでアレルギー反応をおこす人がいるように、ヘアカラーでアレルギー反応をおこす人がまれにいます。ヘアカラーのアレルギー反応は、初回の染毛時のテストで異常が認められなくても、何回目に初めて異常が認められる場合もあります。染毛のたびに毎回必ず皮膚アレルギー試験(パッチテスト)を行ってください。

- 1 テスト液をつくります。
(1)1剤チューブのキャップをはずし、キャップ頭部の突起で、チューブの口に穴をあけます。ごく少量をトレーに出します。
(2)2剤を、1剤と同量だけトレーに出し綿棒で混合します。
※キャップは1剤と2剤をまちがえないように、それぞれ元のチューブにしっかりとしめてください。
- 2 テスト液ができましたら、腕の内側に10円硬貨大にうすく塗り、自然に乾燥させます。
●テスト液が乾燥するまで、衣服につかないようにご注意ください。30分くらい放置しても乾かない場合はテスト液のつけすぎですから、余分なテスト液をティッシュペーパーなどで軽く拭き取ってください。
●テストをした当日は、なるべく入浴しないでください。やむをえず入浴する場合は、テスト部位をぬらさないでください。
- 3 そのまま触れずに48時間放置します(時間を必ず守ってください)。
- 4 テスト部位の観察はテスト液塗布後30分位および48時間後の2回は必ず行ってください。
●そのとき、塗布部に発疹、発赤、かゆみ、水疱、刺激等の皮膚の異常があった場合には、手などでこすらないで直ちに洗い落とし、染毛しないでください。
●途中、48時間以前であっても、同様の皮膚の異常を感じた場合には、直ちにテストを中止し、テスト液を洗い落として、染毛しないでください。
●かぶれた部位などは手などでこすらず、すぐに皮膚科専門医の診療を受けてください。
- 5 48時間たって異常がなければ、すぐに染毛してください。
※日をおくと体質が変わることがあります。皮膚アレルギー試験(パッチテスト)は毎回必ず染める前に行ってください。

ご使用前の準備

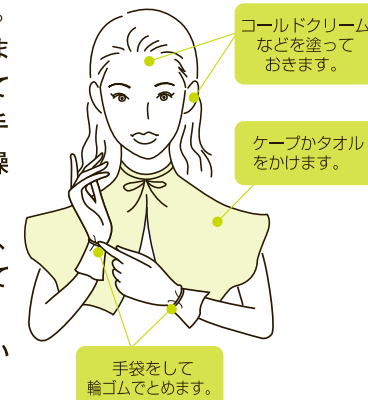
髪の状態

- 前洗いの必要はありません。ただし髪の汚れのひどいとき、カラースプレーなどの一時染毛料や多量の整髪料などをご使用のときは、前日に洗髪しておいてください。
- 非酸化染毛剤(マロンマインドカラーなど)で染めた髪には使用しないでください。

身じたく

- ※薬剤が衣服、床、じゅうたん、壁などに付着すると落ちませんので、充分注意してください。
- 汚れてもかまわない前あきの服装に着替え、首にケープかタオルをかけます。
- 床などが汚れないように新聞紙などを重ねて敷きます。

- 生えぎわや耳や首に混合クリームがついて着色するのを防ぐために、コールドクリームなどを塗っておきますと、ついても落としやすく便利です。ただし、コールドクリームが髪につくと、染まりにくくなりますのでご注意ください。
- 爪も髪と同じように染まりますから、添付の手袋をはめてお使いください。このとき手首を輪ゴムでとめておくとお操作しやすくなります。
- メガネ、イヤリング、ピアス、ネックレス、指輪は、はずしてください。
- 寒いときは、なるべく暖かい部屋で染めてください。



必要なものの準備

箱の中に入っているもの



ご用意いただくもの



準備ができたら裏面へ

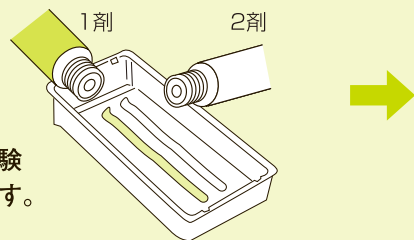
必ず表面もお読みください。

ご使用方法

1 使用直前に混合クリームをつくります。

1剤と2剤を、添付のトレーの中に必要なだけ、同じ量をしぼり出します。

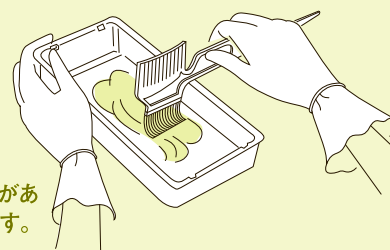
1剤チューブは皮膚アレルギー試験(パッチテスト)のときにあけてあります。



コームブラシのブラシ部分でよく混合します。

できあがった混合クリームは、すぐに髪に塗ってください。

※混合クリームは紫色に発色することがありますが、それぞれ表示の色に染まります。



<1剤・2剤についてのご注意>

※中身の残ったチューブのキャップは、1剤と2剤をまちがえないようにそれぞれ元のチューブにしっかりとめてください。また、高温の場所をさけて保管してください。
※1剤クリームが、まれに一部分黒色か茶色になることがありますが、染毛効果には影響ありません。

2 混合クリームを髪に塗ります。

塗布する
順番



- 1 前髪生えざわ
-
- 2 サイド
-
- 3 トップ
-
- 4 頭のうしろ
-
- 5 えり足

目のあらいクシで髪をよくとかしてほつれをのぞき、クシ通りをよくしておきます。

乾いた髪に使用してください。

髪全体を染める場合

1. 髪に塗ります。

<塗布する順番>を参考に、コームブラシのスライス(とがった)部分で髪を小分けしながら、混合クリームをブラシにとり、髪の **根元** → **中間** → **毛先** の順で塗ります。

※生えざわなど白髪が多い部分には、混合クリームを多めに塗ってください。



2. 髪全体になじませます。

コームブラシのコーム部分で均一になるように髪全体によくのばしてください。



3. 放置します。

5.5G、6G、7G、8G	20分
3G、4G、4.5G、5G、5.4G	30分



白髪の目立つ部分だけを染める場合

1. 髪に塗ります。

混合クリームをブラシにとり、染めたい部分の白髪に **根元** → **中間** → **毛先** の順で塗ります。



2. なじませます。

コームブラシのコーム部分で髪をとかすように、なじませます。



3. 放置します。

5.5G、6G、7G、8G	20分
3G、4G、4.5G、5G、5.4G	30分



新しくのびてきた部分を染める場合(リタッチ)

1. 髪に塗ります。

<塗布する順番>を参考に、混合クリームをブラシにとり、新しくのびてきた髪の根元に塗ります。

※このとき、全体につけると、毛先の部分と根元が均一に染まらないことがあります。毛先の部分にはつけないようにしてください。



2. 放置します。

5.5G、6G、7G、8G	15分
3G、4G、4.5G、5G、5.4G	25分



3. 髪全体になじませます。

根元につけた混合クリームを、コームブラシのコーム部分で毛先に向かってのばし、なじませます。



4. 5分間放置します。



<染める時のご注意>

※混合クリームが顔や皮膚についたときは、すぐに水で湿らせたティッシュペーパーなどで拭き取ってください。時間がたつほど、とれにくくなります。

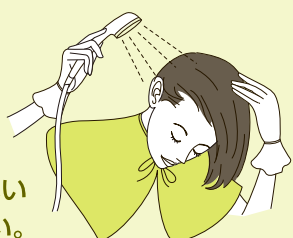
※混合クリームが目に入らないよう、特に注意してください。

※金属製のヘアピンやクシなどは、熱をもち髪をいためることがありますので、使用しないでください。

※使い残した混合クリームは再使用できませんので、必ず捨ててください。

3 洗い流し、よく乾かします。

放置時間がすぎたら、ぬるま湯で十分にすすぎ、シャンプー・トリートメントをして仕上げます。汚れてもかまわないタオルで拭いてください。



<洗髪・乾かす時のご注意>

※洗髪時の洗い液が目に入らないよう、特にご注意ください。

※目に入ったときは、すぐに水またはぬるま湯でよく洗い、眼科医の診療を受けてください。自分の判断で目薬を使用しないでください。

※髪は十分に乾かしてください。半乾きの状態では枕カバー、衣服等に色がつくことがあります。

分割して使用される場合

※1剤・2剤のキャップは、まちがえないようにそれぞれ元のチューブにしっかりとめて、高温の場所をさけて保管してください。

※コームブラシ・トレー・手袋をぬるま湯でよく洗って保管してください。

※2回目からも染毛の前には毎回必ず皮膚アレルギー試験(パッチテスト)を行ってください。

※2回目以降のご使用の際、1剤の先端が黒くなることがありますが、染毛効果には影響ありません。

<使用後のご注意>

※再度ブリーチやヘアカラー(ヘアマニキュアを除く)を使用される場合は、髪や地肌への負担を考慮し1週間以上の間隔をおいてからご使用ください。

※次のような場合には、衣類、帽子、枕カバーなどに色移りすることがありますのでご注意ください。

・髪がぬれているとき。(運動などで多量の汗をかいたとき、雨にぬれたとき、洗髪後など。)

・育毛剤、ヘアリキッド、ヘアフォームなどの頭髪用品を多量に使用したとき。

捨てられる際は…

コームブラシとトレーは、すぐ水などで軽くすすぎ、クリームを洗い流してから、ビニール袋などで包んで、各地域の指定の分別に合わせて、ごみに出してください。